

2022.11.22



虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト工事現況(2022年10月撮影)

2023年3月期 中間決算概要

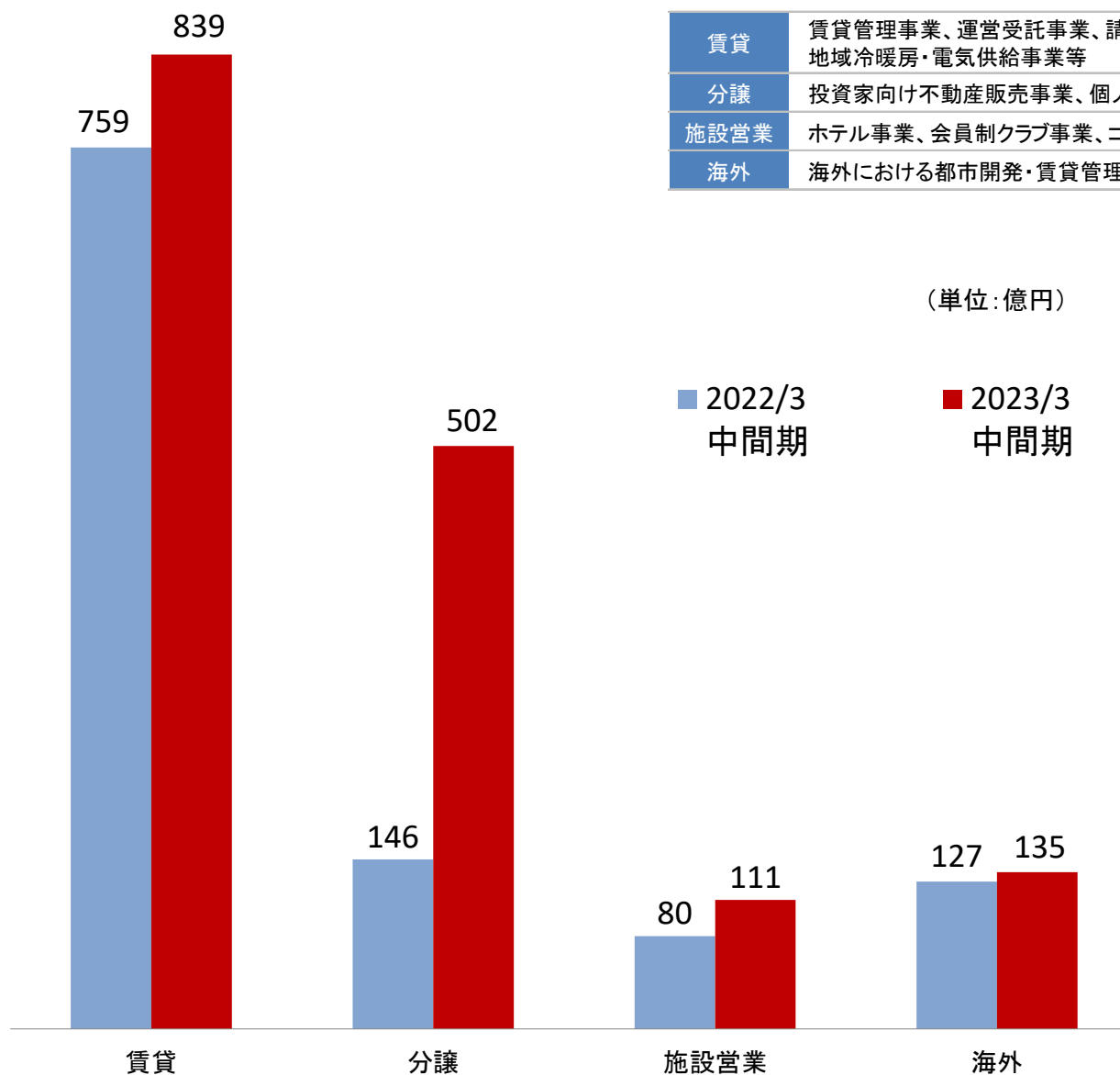
2023年3月期 中間連結損益計算書の概要

(単位:億円)

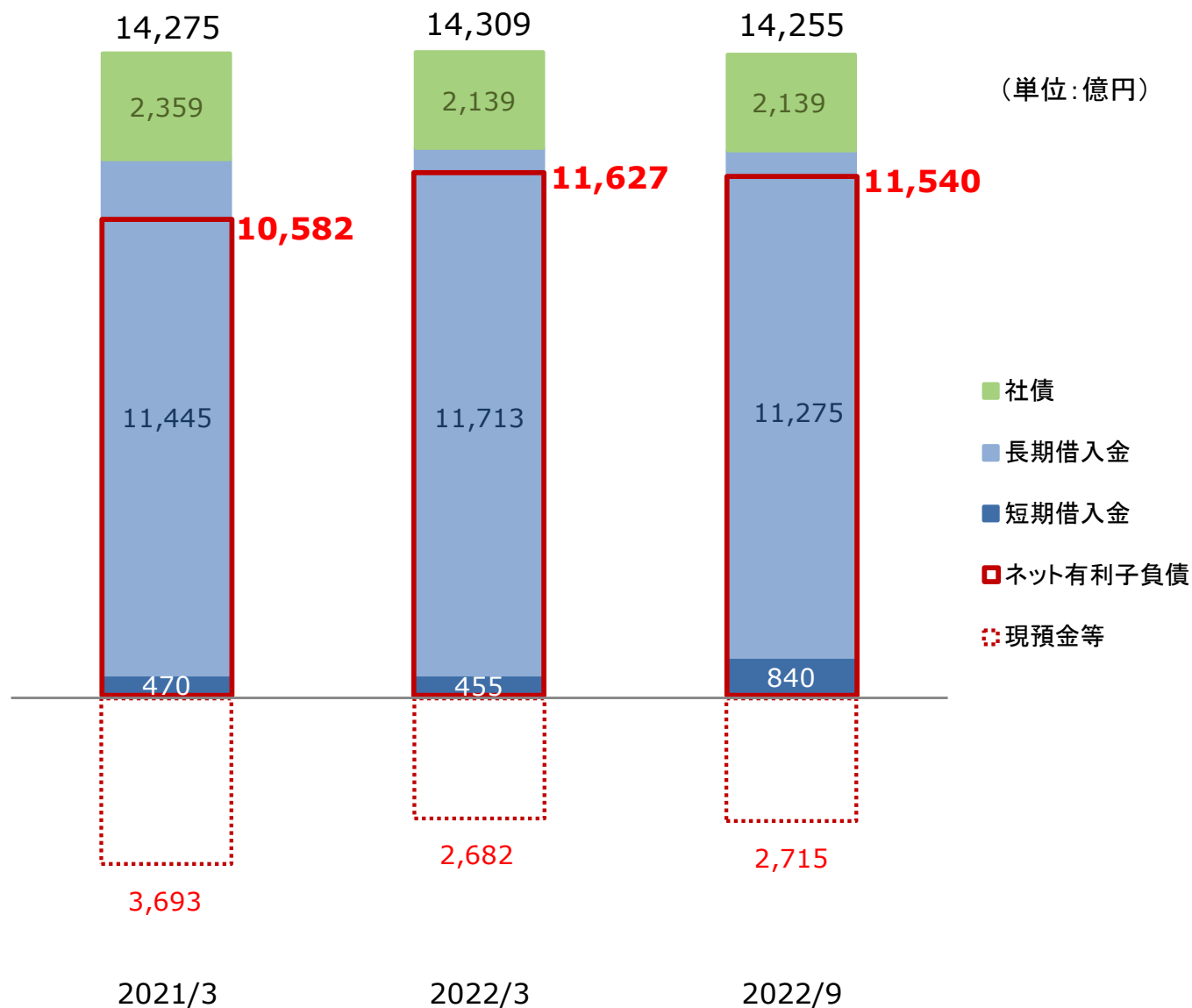
	2022/3 中間期	2023/3 中間期	増減	
営業収益	1,081	1,561	+479	+44.3%
営業利益	217	391	+173	+79.5%
営業外損益	2	△3	△6	
経常利益	220	388	+167	+75.7%
特別損益	△4	△1	+3	
税金等調整前中間純利益	216	386	+170	
親会社株主に帰属する中間純利益	136	260	+124	+91.2%

■セグメントの内容

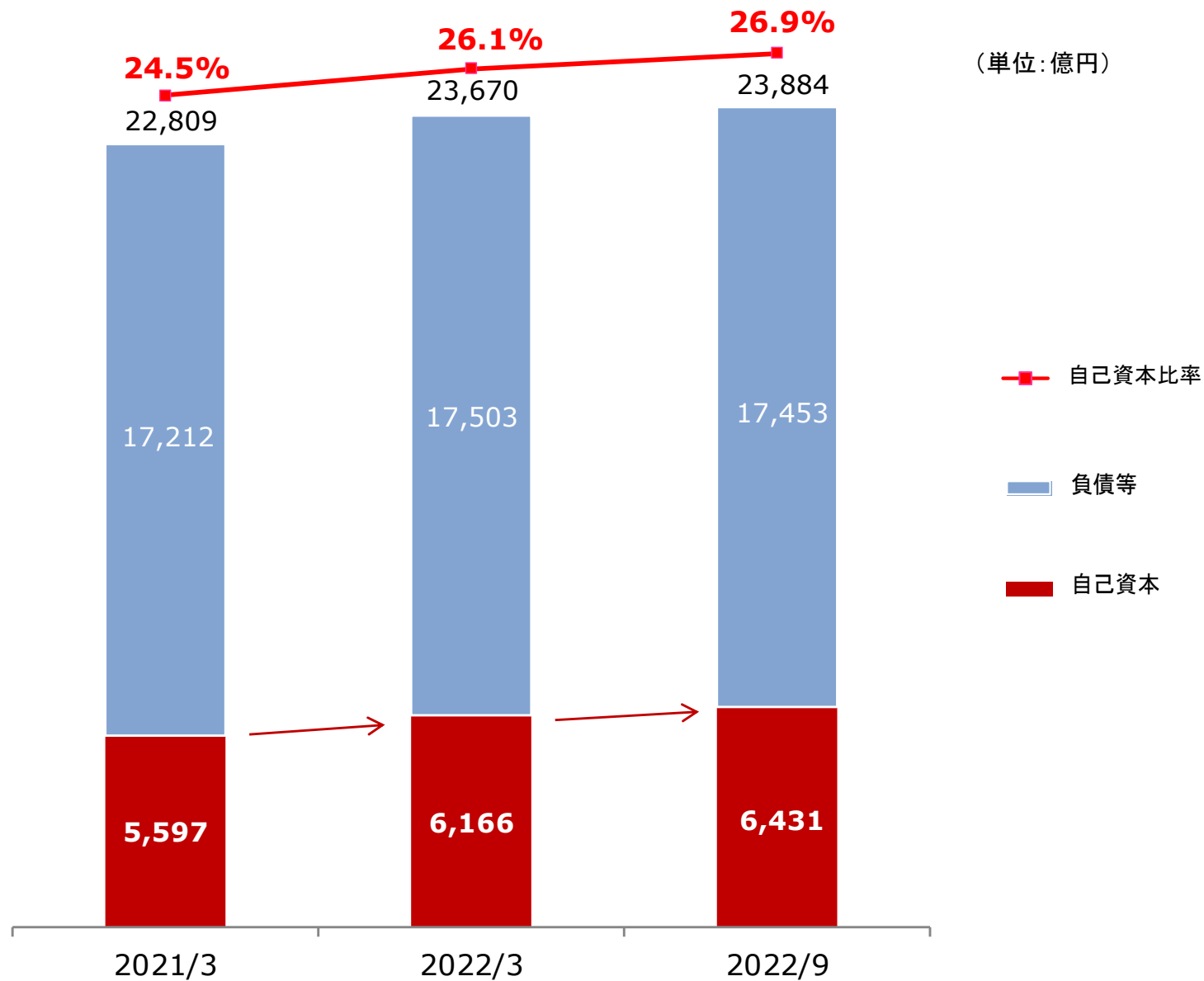
賃貸	賃貸管理事業、運営受託事業、請負工事事業、地域冷暖房・電気供給事業等
分譲	投資家向け不動産販売事業、個人顧客向け住宅分譲事業
施設営業	ホテル事業、会員制クラブ事業、ゴルフ事業
海外	海外における都市開発・賃貸管理事業等



2023年3月期中間決算 有利子負債の状況



2023年3月期中間決算 自己資本(比率)の状況



2023年3月期 業績予想

(単位:億円)

	2022/3	2023/3 予想	増減	2023/3 中間期	進捗率
営業収益	2,453	2,730	+276 +11.3%	1,561	57.2%
営業利益	527	535	+7 +1.4%	391	73.1%
経常利益	537	510	△27 △5.1%	388	76.1%
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	422	370	△52 △12.4%	260	70.3%

森ビルの取り組み

※ 進行中のプロジェクトについては現段階での計画概要に基づいたものです。
完成時には一部異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

ヒルズの未来形 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」

- 圧倒的なスケールとインパクトを誇る“ヒルズの未来形”。来年の竣工に向け建築工事が進行中。
- 超高層建築によって、足元に緑豊かな環境を創出し、オフィス、住宅、ホテル、インターナショナルスクール、商業施設、文化施設など、多彩な都市機能を一体的に集約された「立体緑園都市(ヴァーティカル・ガーデンシティ)」を実現。
- コンセプトは「Modern Urban Village」。圧倒的な緑に囲まれた、広場のような街が誕生。「Green」と「Wellness」を柱に、自然と調和した環境の中で多様な人々が集い、人間らしさの追求と新たなコミュニティの形成を目指す。



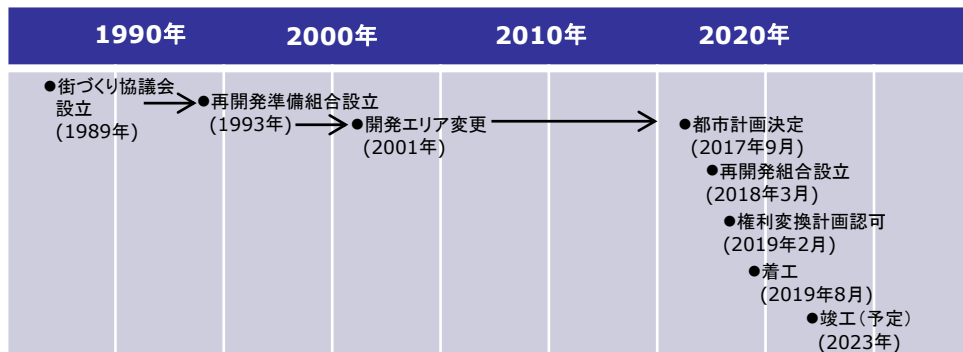
©Dbox for Mori Building Co.



中央広場(イメージ) ©Dbox for Mori Building Co.



現場写真(2022年10月撮影)

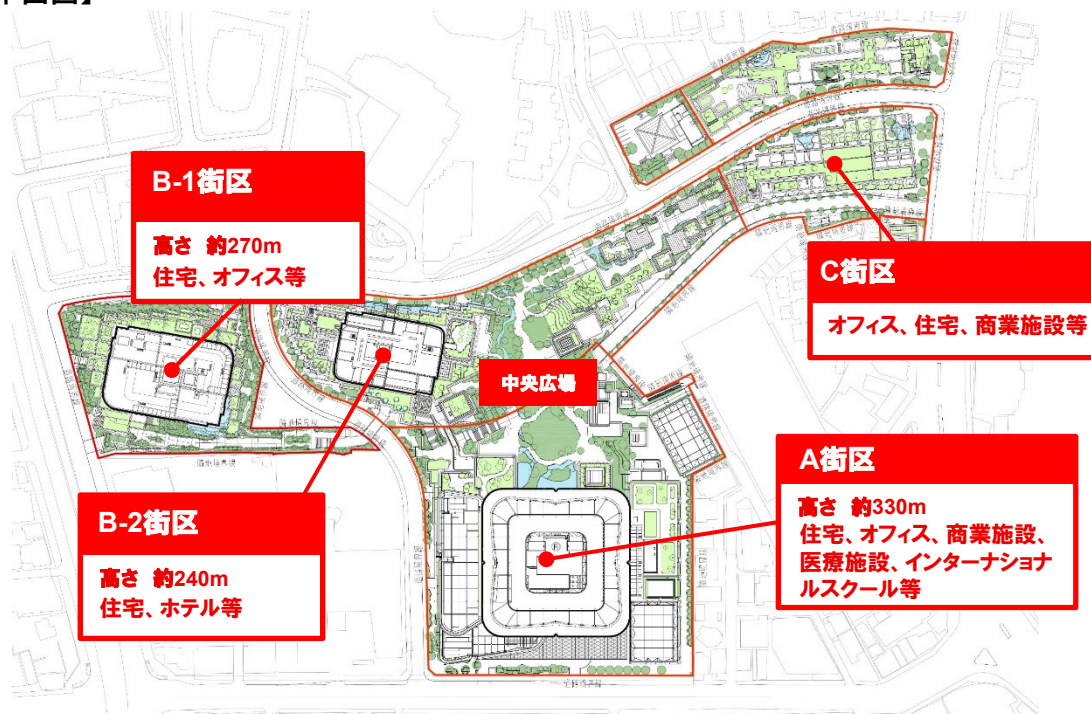


区域面積	約8.1ha
建築面積	約63,900㎡
延床面積	約861,500㎡
着工	2019年8月
竣工	2023年(予定)

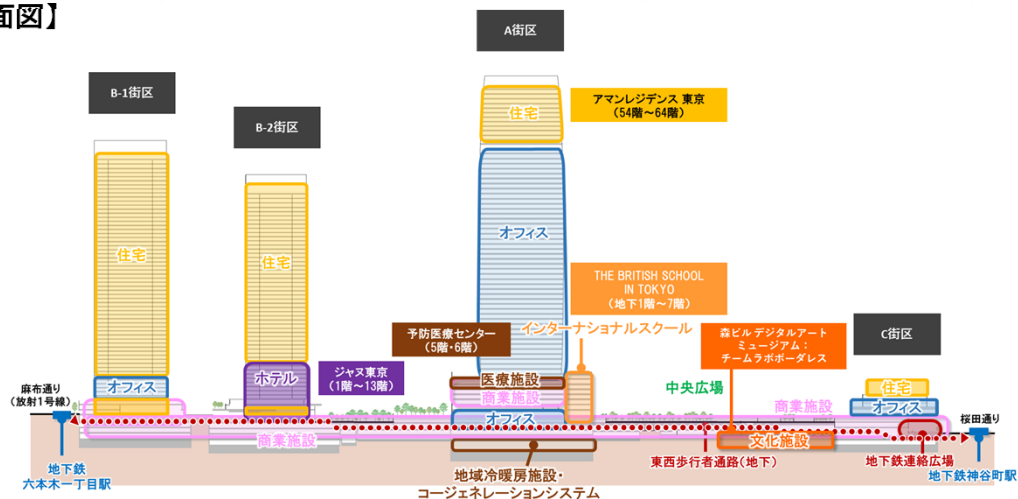
桜田通り 神谷町駅方面から計画地を望む(イメージ)

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」

【平面図】



【立面図】



商業エリア(イメージ)

©Dbox for Mori Building Co.



フードマーケット(イメージ)

©Dbox for Mori Building Co.



インターナショナルスクール
(イメージ)

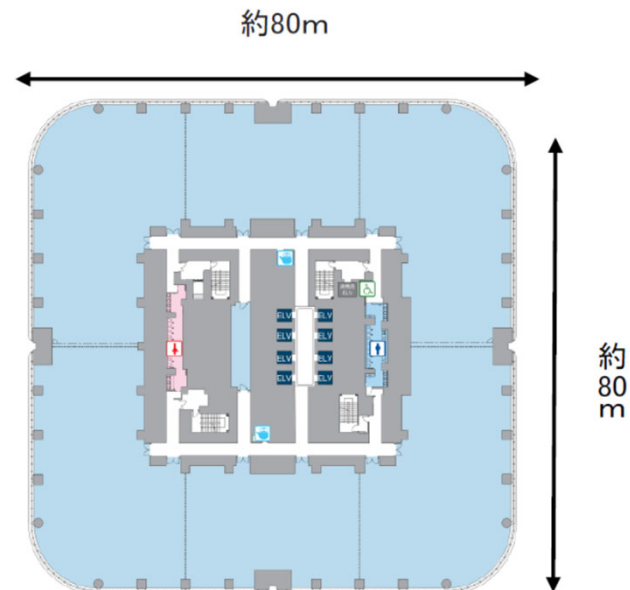


「虎ノ門・麻布台プロジェクト」 A街区上棟

- 高さ約330mを誇る多用途複合の超高層タワーである「虎ノ門・麻布台プロジェクト A街区」が4月21日に上棟。
- 7階～52階のオフィスは、総貸室面積 約204,000㎡(約60,000坪)、基準階貸室面積は約4,300㎡(約1,290坪)～約4,840㎡(約1,460坪)。全方位に約18mの奥行きを有する整形な無柱空間によって、開放的で自由なオフィスレイアウトが可能。



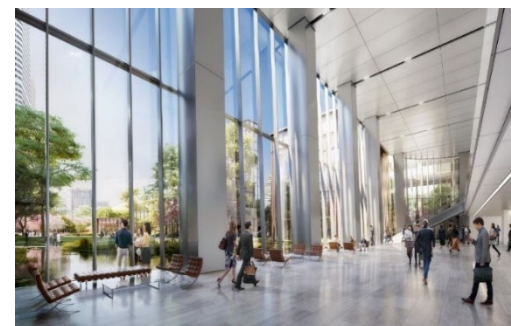
「虎ノ門・麻布台プロジェクト」(2022年11月撮影)



基準階平面図



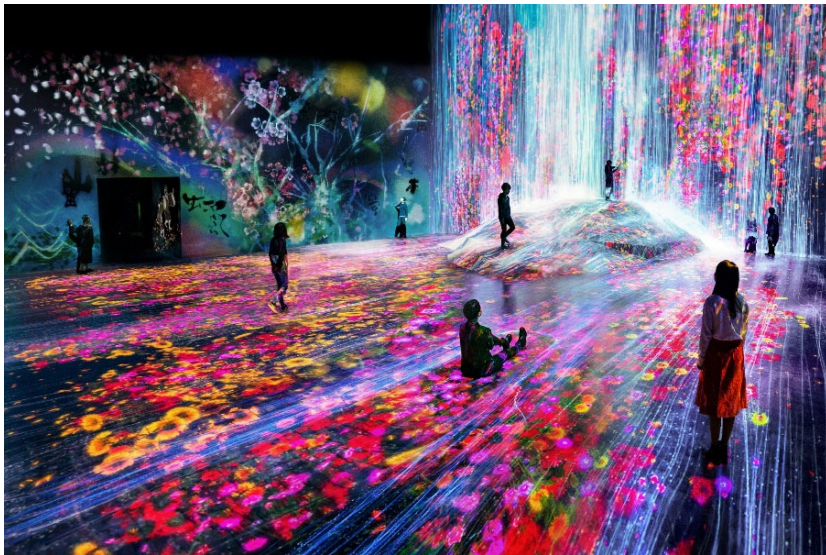
上棟式の様子(2022年4月21日撮影)



オフィスエントランス(イメージ)

「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」 お台場から「虎ノ門・麻布台プロジェクト」に移転

- チームラボと共同で企画運営する「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」が、「虎ノ門・麻布台プロジェクト」に移転・開業。
- 2018年6月にお台場・パレットタウン内にオープンした既存ミュージアムは、初年度だけで、世界160か国以上から、約230万人の動員を達成(うち訪日外国人割合は約50%)。また、米国のニュース雑誌 TIME誌による「世界で最も素晴らしい場所2019年度版(World's Greatest Places 2019)」への選出に始まり、国内外において権威ある賞を多数受賞するなど、「東京・日本の新しいデスティネーション」として、広く世界の人々を惹きつけてきた。
- コンセプトである「境界のない1つの世界の中で、さまよい、探索し、発見する」を継承しつつ、展示作品やアート体験を進化させ、よりボーダレスにすることで、世界の人々を魅了する「東京・日本のデスティネーション」としての地位をさらに強化する。



森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス ©チームラボ



移転・開業する「虎ノ門・麻布台プロジェクト」イメージパース

©Dbox for Mori Building Co.



区域面積	約7.5ha
延床面積	約80万㎡
オフィス面積	約30万㎡
住宅戸数	約720戸
商業面積	約2万6,000㎡
緑地面積	約1万5,000㎡

「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」

「国際新都心・グローバルビジネスセンター」へと拡大・進化



虎ノ門ヒルズ 森タワー(2014年竣工)

敷地面積 : 17,069㎡
 延床面積 : 244,360㎡
 高さ/階数 : 247m/地上52階
 用途構成 : オフィス、商業、住宅、ホテル、カンファレンス等

虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー(2020年1月竣工)

敷地面積 : 10,065㎡
 延床面積 : 172,925㎡
 高さ/階数 : 185m/地上36階
 用途構成 : オフィス、商業、インキュベーション施設、バスターミナル等

虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー(2022年1月竣工)

敷地面積 : 約6,535㎡
 延床面積 : 約121,000㎡
 高さ/階数 : 約220m/地上54階
 用途構成 : 住宅、商業、子育て支援施設、スパ等

虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(2023年7月竣工予定)

敷地面積 : 約13,960㎡
 延床面積 : 約253,210㎡
 高さ/階数 : 約266m/地上49階
 用途構成 : オフィス、商業、ホテル、ビジネス発信拠点等

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー	●7月 都市計画決定	●1月 再開発組合設立	●2月 着工			●1月 竣工			
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー		●9月 都市計画決定	●3月 着工					●1月 竣工	
虎ノ門ヒルズ ステーションタワー				●3月 都市計画決定	●11月 再開発組合設立	●11月 着工			●7月 竣工(予定)
新虎通りCORE		●7月 着工		●9月 竣工					

- 虎ノ門エリアで最大規模となる547戸の住戸に加えて、スパ施設、ミシュラン星付き日本料理店、インターナショナルスクールなどを併設する「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」が2022年1月に竣工。森ビルの住宅事業のノウハウを注ぎ込み、最高グレードを誇るグローバルレベルのレジデンスを提供。
- 歩行者デッキを通じて「虎ノ門ヒルズ 森タワー」や「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」と繋げることで、虎ノ門ヒルズエリアにおける回遊性を向上。
- 建築デザインは、クリストフ・インゲンホーフ氏、インテリアデザインはトニー・チー氏が担当。

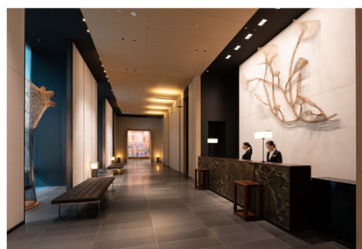


敷地面積	約6,535㎡
延床面積	約121,000㎡
着工	2017年3月
竣工	2022年1月

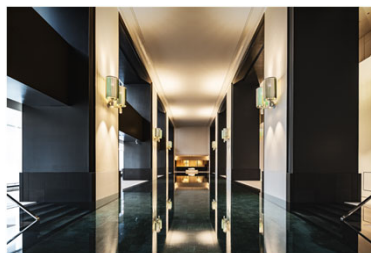
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー（2022年10月撮影）



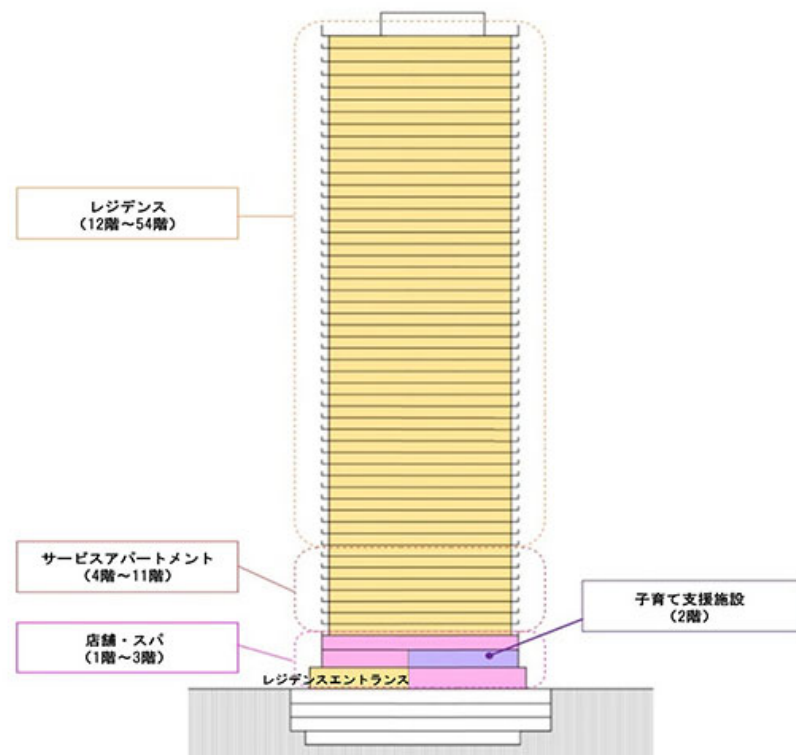
専有部(リビング・ダイニング)



24時間対応のバイリンガルフロントサービス



虎ノ門ヒルズスパ

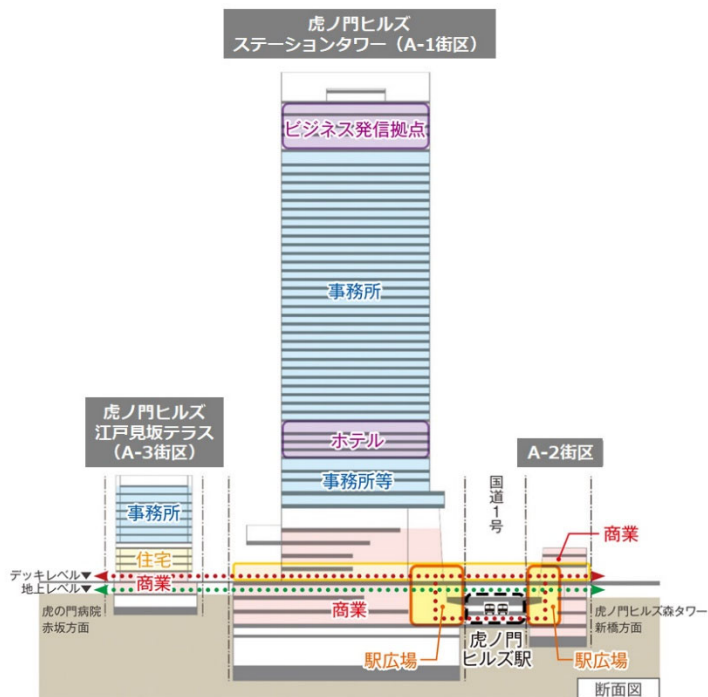


「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 上棟

- 地上 49 階建て、高さ約 266m の超高層タワーである「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(A-1街区)」が2022年7月22日に上棟。
- 東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と街の一体的な整備を行い、地下鉄駅広場や周辺開発と連携した立体的な歩行者ネットワーク等の都市基盤の強化・拡充を図る。
- 基準階約1,000坪のグローバルレベルのオフィス、駅広場と一体となった商業施設、国際水準のホテルなどを整備。また、最上部には様々な価値創造活動やビジネスイベントに対応するフォーラム、ギャラリー、レストラン等を有する多機能複合施設を開設。虎ノ門ヒルズエリアの国際性豊かな地域特性や、官公庁をはじめとした都市機能の集積を生かし、世界に向けて新たなビジネスやイノベーションを発信するための拠点となることを目指す。



虎ノ門ヒルズ ステーションタワー (2022年10月撮影)



「虎ノ門・麻布台プロジェクト」と「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」 「WELL」と「LEED ND」「LEED BD+C(CS)」の予備認証(最高ランク)を取得

- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト(A街区)」と「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(A-1街区)」が、オフィス・商業施設部分で人々の健康やウェルネスに建物が及ぼす影響に着目した「WELL」の予備認証を取得。竣工後には最高ランクのプラチナランクを取得予定。
- 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」と「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」が、米国グリーンビルディング協会による国際環境性能認証制度「LEED」のエリア開発を対象とした「ND」カテゴリーにおいて、最高ランクのプラチナ予備認証を取得。
- さらに、「虎ノ門・麻布台プロジェクト(A街区)」および「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(A-1街区)」が、新築テナントビルを対象とした建物単位の認証「BD+C(CS)」カテゴリーにおいても、オフィス・商業施設部分で最高ランクのプラチナ予備認証を取得。「ND」と「BD+C(CS)」の両カテゴリーにおける本認証取得が実現した際には、世界初の事例となる見込み。

※WELL=WELL Building Standard

※LEED=Leadership in Energy & Environmental Design ※ND=Neighborhood Development ※BD+C(CS)=Building Design and Construction/Core and Shell Development



©Dbox for Mori Building Co.

屋上緑化が施された虎ノ門・麻布台プロジェクトの低層棟(イメージ)



虎ノ門ヒルズ 森タワーのオーバル広場

【WELL認証】

WELL

米国グリーンビルディング協会が運営する、建物環境の人々の健康やウェルネスに及ぼす影響に注目した世界初の建物基準。主に室内環境や、人々の健康に繋がる施設・サービスを評価する。

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」のA街区は、予備認証取得済の物件として**世界第1位の登録面積**、
「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー(A-1 街区)」は、国内第2位の登録面積となる。

【LEED認証】



米国グリーンビルディング協会が開発した建築物の環境性能評価システムで、世界で最も広く普及している認証制度の1つ。水やエネルギーの効率的利用、室内環境、持続可能な資材の利用などを通じて建物や街の環境性能を評価する。

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」によるNDカテゴリーの**プラチナランクの取得は、都内初**、「虎ノ門ヒルズエリアプロジェクト」はそれに次ぐ2番目の事例であり、都心部の複合開発でのプラチナランク取得は世界的にも稀な事例である。

当社初の東南アジアにおける開発事業 JAKARTA MORI TOWER 竣工



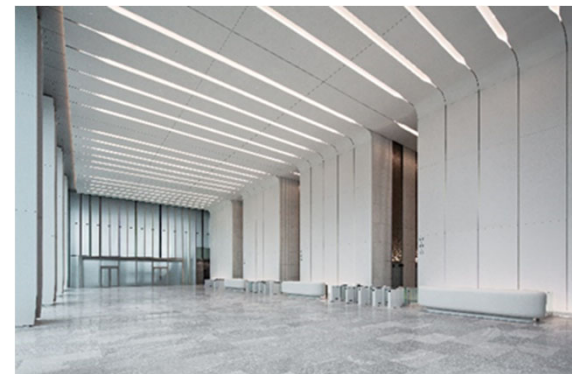
JAKARTA MORI TOWER (2022年10月撮影)

所在地	インドネシア・ジャカルタ
敷地面積	約8,088 m ²
延床面積	約190,000 m ²
着工	2017年7月
竣工	2022年10月

- 当社初の東南アジアでの開発事業で、ジャカルタ最高水準のプレミアムグレードとなる、地上 58 階建て、高さ約 266 m、延床面積約 190,000 m²の大規模オフィスタワー計画。
- ジャカルタ市の中でも特にビジネス中心地として評価の高い目抜き通りであるスディルマン通り沿い、交通の要衝であるスマング交差点近くに位置。
- 東京や上海などで培った都市づくりのノウハウを活かし、成長著しい国際都市・ジャカルタのさらなる進化・発展に貢献。



オフィスエントランス外観



オフィスエントランス内観



ジャカルタ市広域図



アウトドアテラス(イメージ)

23年で4億人が来館した「パレットタウン」が閉館

- 2022年8月31日に「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」と「パレットタウン大観覧車」の営業が終了。パレットタウンが23年間の歴史に幕を下ろし、最終日には閉館を惜しむお客様が長蛇の列をなした。
- 中世ヨーロッパの雰囲気特徴的な商業施設「VenusFort」をはじめ、モビリティの体験型テーマパーク「MEGA WEB」や「パレットタウン大観覧車」、「Zepp Tokyo」など、多様な施設が集結した「パレットタウン」は1999年3月に臨海副都心エリアに誕生し、エリアの発展に寄与。2018年6月には森ビルとチームラボが共同で運営する「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」が加わり、東京の新たなデスティネーションとして国内外から多くのお客様にご来館いただいた。



2021年のお台場エリア



「VenusFort」フィナーレセレモニーの様子(2022年3月)



チームラボ ボーダレス 営業最終日のにぎわい



大観覧車営業最終日の来館者インタビュー



終日できていた観覧車へ向かう長蛇の列

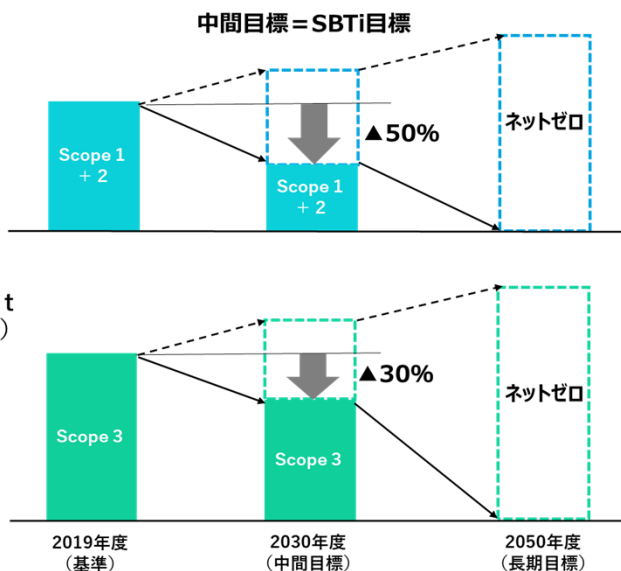
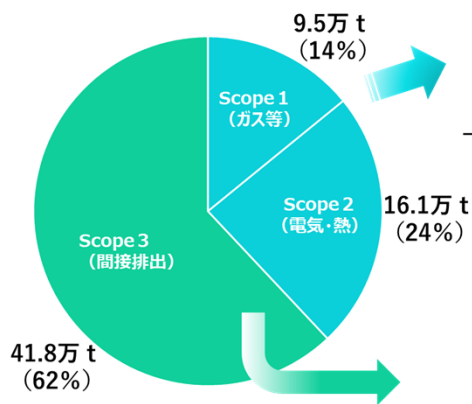


大観覧車の営業終了を見届ける多くの方々

温室効果ガス排出量削減 中長期目標を設定

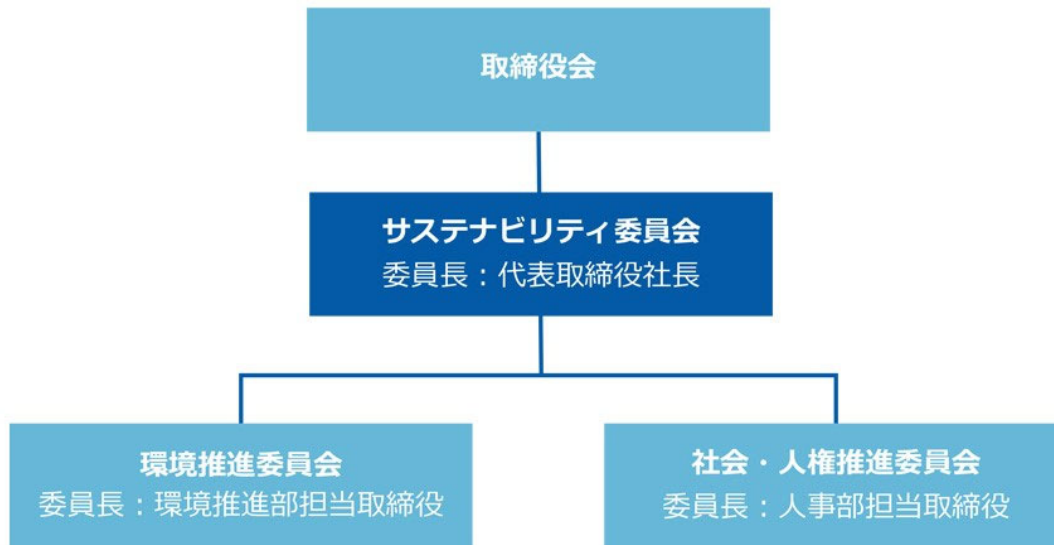
- 脱炭素社会の実現に向けて、森ビルグループ(連結対象)の事業活動に伴う温室効果ガス排出量をスコープ1及び2については2030年度に50%削減(2019年度比)、スコープ3については2030年度に30%削減(2019年度比)とし、2050年度までにネットゼロとする目標を設定。
- 当目標は、温室効果ガス排出削減に関する国際的枠組みである「パリ協定」達成のために科学的根拠に基づいた削減目標を設定することを推奨する「SBTi(Science Based Targets initiative)」に対してコミットメントを表明し、「1.5°C水準(産業革命以降の気温上昇を1.5°C以内に抑えるための科学的根拠に基づく削減目標)」にて申請中で、今年度中に認定を取得する予定。毎年の実績報告は気候関連情報開示プラットフォーム「CDP」への回答を活用していく。
- 2022年9月には、企業が事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目指す、国際的な環境イニシアチブ「RE100」に参加。および日本のRE100加盟窓口である「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)」にも参画。加えて、気候関連財務情報開示タスクフォース「TCFD」の提言に賛同し、本年11月にホームページにて開示済み。

森ビルグループ 2019年度CO₂排出量
総量67.4万 t



<p>SBTi認定</p> <p>温室効果ガス削減中期目標</p> <p>※2022年4月コミットメント申請中(今年度取得予定)</p>	<p>RE100参加</p> <p>2030年までに100%</p> <p>RE100</p> <p>※参加</p>
<p>GDP回答</p> <p>気候関連情報開示プラットフォーム</p> <p>CDP</p> <p>DISCLOSURE INSIGHT ACTION</p>	<p>JCLP</p> <p>日本気候リーダーズ・パートナーシップ加盟</p>
	<p>TCFD賛同</p> <p>気候変動関連財務情報開示</p> <p>TCFD</p> <p>TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES</p> <p>※2022年4月賛同、11月開示済み</p>

- 「都市を創り、都市を育む」という仕事を通じて、持続可能な社会の実現や地域の発展、人々の安全・健康・幸福に貢献し続けるべく、2022年7月1日付で代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を組織化するなど、サステナビリティ推進体制を強化。
- 「サステナビリティ委員会」と、その下部委員会として「環境推進委員会」および「社会・人権推進委員会」を設置。
- 「サステナビリティ委員会」では、気候変動や人権、サプライチェーンマネジメントなどサステナビリティに関する重要事項の審議および下部委員会のモニタリングを行う。「環境推進委員会」「社会・人権推進委員会」では、各々のサステナビリティ課題への対応の取組・推進を行う。
- あわせて、森ビルグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み事例を、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることを目的に、コーポレートサイト内にサステナビリティサイトを新設した。



サステナビリティ推進体制



- 2022年7月から8月にかけて、「ヒルズ街育プロジェクト」の新たな中期探求プログラム『みらまちキャンプ』を初開催。オンラインとオフラインを併用し全5回、より総合的かつ継続的に未来の街づくりについて考えてもらう機会を創出。約20名の子どもたちが参加。
- オンラインプログラムでは、「緑に溢れた街づくり」や「災害に強い安心・安全な街づくり」などについて、森ビル社員が務める講師とともに学習。オフラインプログラムでは、六本木ヒルズの備蓄倉庫の探検や、森美術館でのアート鑑賞を通じて、街づくりの醍醐味や奥深さを体感。これらの学びを活かして、グループで「より良い未来の街」の模型を製作し、六本木ヒルズ内で展示した。



「ヒルズ街育プロジェクト『みらまちキャンプ』」



親子で「未来の街」を考えるワーク



『みらまちキャンプ』六本木ヒルズの街を探検(2022年7月)



『みらまちキャンプ』最終成果物(2022年8月)

【ヒルズ街育プロジェクトとは】

(後援: 文部科学省、港区教育委員会)

創業から60年にわたり地域の方と共に街づくりを推進してきた当社が、未来を担う子どもたちに、街づくりのノウハウや街の魅力を伝えるとともに、楽しく学びながら次世代の都市のあり方を考える機会として実施。六本木ヒルズ、アークヒルズなどの当社が開発・運営する実際の“街”を舞台に、当社が街づくりで大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマとした多様な体験型プログラムを展開。一般公募によるプログラムだけでなく、近隣小学校のカリキュラムの一環として当社施設への受入や小学校に出向いて行う出張授業の実施など、地域コミュニティにおける子どもの学習機会の提供にも貢献している。2007年の開催以降、延べ16,000名以上の方々が参加。

2022年度 上半期の主な取り組み（プレスリリース配信日）

4月21日	「虎ノ門・麻布台プロジェクト A街区」上棟
5月13日	「災害時の状況可視化・情報連携システム」を独自開発
5月23日	温室効果ガス排出量削減 中長期目標を設定
5月26日	東京23区の大規模オフィスビル市場動向調査2022
5月30日	【森ビルゴルフリゾート】『BMW日本ゴルフツアー選手権 森ビルカップ』開催
6月15日	ヒルズ街育プロジェクト 新たな中期探求プログラム『みらまちキャンプ』今夏に初開催
6月23日	【森美術館】森美術館 TikTokとパートナーシップ提携
6月28日	【森美術館】《開幕》地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング
6月30日	【六本木ヒルズ】「六本木グルメバーガーグランプリ 2022」開催
7月4日	3年ぶりのリアル開催が決定「キッズワークショップ2022」
7月22日	「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」上棟
7月26日	森ビルグループ サステナビリティ推進体制を強化
8月22日	「クリエイティブエコシステム構築に向けた共同プロジェクト」が始動
8月22日	【森美術館】森美術館館長 片岡真実 第17回西洋美術振興財団賞「学術賞」を受賞
8月24日	「森ビル デジタルアート ミュージアム：チームラボボーダレス」がお台場から「虎ノ門・麻布台プロジェクト」に移転
9月12日	「公募ハイブリッド社債（劣後特約付社債）」発行のお知らせ
9月14日	森ビル 国際的な環境イニシアチブ「RE100」に加盟

添付資料

中間連結比較貸借対照表

(単位:百万円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	2022年3月31日	2022年9月30日	増減	科 目	2022年3月31日	2022年9月30日	増減
流 動 資 産				流 動 負 債			
現金及び預金	266,207	269,508	3,300	支払手形及び営業未払金	11,749	10,502	△ 1,246
営業未収入金	9,672	12,993	3,321	短期借入金	45,596	84,079	38,482
契約資産	692	2,320	1,628	1年内償還予定の社債	10,000	10,950	950
有価証券	2,000	2,000	-	未払法人税等	11,969	9,424	△ 2,545
棚卸資産	72,289	48,645	△ 23,643	契約負債	16,248	17,778	1,530
その他の	30,847	30,785	△ 61	賞与引当金	1,302	1,411	108
貸倒引当金	△ 16	△ 17	△ 1	その他の	39,896	36,238	△ 3,658
流動資産合計	381,693	366,236	△ 15,457	流動負債合計	136,763	170,384	33,621
固 定 資 産				固 定 負 債			
有形固定資産				社 債	203,950	203,000	△ 950
建物及び構築物	282,517	280,611	△ 1,906	長期借入金	1,171,385	1,127,545	△ 43,840
機械装置及び運搬具	11,098	10,665	△ 433	受入敷金保証金	87,362	92,242	4,879
工具、器具及び備品	8,591	8,804	212	長期預り金	1,279	1,273	△ 5
土地	489,943	491,315	1,371	退職給付に係る負債	1,827	1,799	△ 27
建設仮勘定	85,238	87,368	2,130	役員退職慰労引当金	1,055	1,078	23
不動産仮勘定	242,130	242,194	63	固定資産解体費用引当金	3,490	3,493	2
信託不動産	577,624	577,530	△ 94	繰延税金負債	126,637	127,577	940
その他の	1,726	1,736	10	その他の	5,687	5,379	△ 307
有形固定資産合計	1,698,871	1,700,225	1,354	固定負債合計	1,602,675	1,563,390	△ 39,285
無形固定資産				負債合計	1,739,439	1,733,774	△ 5,664
借地権	57,176	57,815	638				
のれん	11,970	11,887	△ 82	純 資 産 の 部			
その他の	6,166	5,743	△ 422	株 主 資 本			
無形固定資産合計	75,312	75,446	133	資 本 金	79,500	79,500	-
投資その他の資産				資 本 剰 余 金	22,563	22,563	-
投資有価証券	50,350	52,464	2,114	利 益 剰 余 金	474,267	481,773	7,505
エクイティ出資	25,062	25,599	537	自 己 株 式	△ 11,507	△ 11,507	-
長期貸付金	86,856	117,331	30,475	株 主 資 本 合 計	564,824	572,330	7,505
退職給付に係る資産	987	1,018	31	その他の包括利益累計額			
繰延税金資産	89	85	△ 3	その他有価証券評価差額金	15,050	15,619	569
その他の	49,138	51,285	2,147	繰延ヘッジ損益	69	528	459
貸倒引当金	△ 1,298	△ 1,213	85	為替換算調整勘定	36,650	54,576	17,925
投資その他の資産合計	211,184	246,571	35,387	退職給付に係る調整累計額	96	95	△ 0
固定資産合計	1,985,368	2,022,243	36,875	その他の包括利益累計額合計	51,866	70,820	18,953
				非支配株主持分	10,931	11,554	623
資産合計	2,367,062	2,388,480	21,418	純資産合計	627,623	654,705	27,082
				負債純資産合計	2,367,062	2,388,480	21,418

中間連結比較損益計算書

(単位:百万円)

科 目	自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日	増減
営 業 収 益	108,189	156,160	47,971
営 業 原 価	74,662	103,891	29,228
営 業 総 利 益	33,527	52,269	18,742
販売費及び一般管理費	11,730	13,152	1,422
営 業 利 益	21,796	39,116	17,319
受 取 利 息	392	592	200
受 取 配 当 金	156	110	△ 46
受 取 補 償 金	963	963	0
持分法による投資利益	1,000	836	△ 164
為 替 差 益	220	616	395
投資事業組合運用益	649	-	△ 649
そ の 他	1,187	1,253	65
営 業 外 収 益	4,571	4,372	△ 199
支 払 利 息	3,597	3,877	280
金 融 手 数 料	583	600	16
そ の 他	94	201	107
営 業 外 費 用	4,274	4,679	404
経 常 利 益	22,093	38,809	16,716
固 定 資 産 売 却 益	10	118	108
投資有価証券売却益	859	-	△ 859
補 助 金 収 入	369	241	△ 128
そ の 他	9	3	△ 5
特 別 利 益	1,248	363	△ 884
固 定 資 産 売 却 損	4	4	0
固 定 資 産 圧 縮 損	-	241	241
事業再編に伴う損失	683	192	△ 491
新型コロナウイルス感染症による損失	861	-	△ 861
そ の 他	142	54	△ 87
特 別 損 失	1,691	492	△ 1,199
税金等調整前中間純利益	21,650	38,681	17,030
法人税、住民税及び事業税	5,434	11,814	6,380
法 人 税 等 調 整 額	2,293	507	△ 1,785
中 間 純 利 益	13,922	26,359	12,436
非支配株主に帰属する中間純利益	273	264	△ 8
親会社株主に帰属する中間純利益	13,649	26,094	12,444